

島活メニューの一例。早朝、絶景の岬でおいしいコーヒーを味わうプランは特に女性に人気!

# 隠れ宿を売り出せ

24

5月も下旬、田植えのシーズンを迎えて島民は活気づき、島中の自然がいよいよ輝きを増している。隠岐・海士。ブランドいわがき「春香」が旬真っ盛りであるほか、沖メバルやクロダイ(チヌ)、春アオリ(イカ)などがおいしい海の幸が釣り人を喜ばせています。

そんな中、まさに「海士を売り出せ!」とばかりに海士町観光協会が全国的にPRしているのが、海士の「島旅」。

①海士ブランドの特産品や旬の高級食材など、この島ならではのこつとお(ごちそう)を宿で堪能できること「島食」

②お客様目線に立った質の高いサービスを提供

## 島食 島宿 島活

できる、海士町観光協会が認定した宿(※島内で4軒のみ)で過ごせること「島宿」

③穴場スポット散策やサイクリング、緋扇貝の絵付けなど、朝夕約1時間のプチプランをお好みで体験できること「島活」

この三つを満たす旅行、それが島旅です。

島旅の基本は、1泊2食付き9500円の『島宿プラン』。これには『島食』も含まれますが、『島活』については、10種類以上も用意された各種アクティビティ(一律1000円)から体験したいものを選んで予約します。観光協会が企画などを担当する青山敦士さんに

よると、「この春からの新企画ですが、滑り出し好調。情報誌『日経おとなのOFF』6月号や旅行専門誌『じゃらん』最新号でも丁寧に紹介していただいたので、反響が楽しみです」。

観光協会が新プラン開発に取り組み始めたのは昨年秋。大手旅行会社と提携して、島の民宿を生かしたモニターツアーを実施することになりました。しかし最初は「プロの企画マンに70項目にも及ぶ『ダメだし』をくらって大ショック。宿の設備からアメニティーまで、課題を一つ一つ民宿の方と一緒に改善してきました」。飾らない海士らしさを感じてもらいつつ、都会の方にも不便を感じさせず、より快適に、時間をかけて内容を練り、関係者との信頼関係を固めて、観光振興への意識をみんなまで高めてき



島宿認定の人気民宿「但馬屋」。若おかみがしゃもじをもって踊っているのは地元民謡「キンニャモニャ」

# 3拍子そろった島旅を

「最近では、クオリティーが徐々に上がってきていることを実感できてうれしい。まだ課題は多いけど、より面白い仕掛けを考えながら、もっと多くの人を海士へ呼びたい!」と青山さんは気合十分です。

島食・島宿・島活の3拍子そろった島旅。そして、言葉の定義だけでは

とろえきれない魅力もこの島にはあふれています。地元民との素朴なやりとり、じっちゃんばっちゃんの豊かな知恵。屈託ない笑顔。海や山との

## 海士町観光協会が全国へPR

### 【海士町観光協会】

島へのアクセス方法から島内での過ごし方まで、気さくなスタッフが懇切丁寧にサポートします。窓口は、斐波港のキンニャモニャセンター1階。営業時間は午前7時半～午後7時で年中無休! お気軽に連絡(電話08514・2・0101)ください。

